

たかぶくの まちづくり

No.33

協議会
広報紙

高棟の人口

世帯数 2,852戸
人口 7,717人
男女 3,769人
3,948人
R4.7.1 現在



みんなが参画できるまちづくり協議会をめざして 令和4年度のまちづくり協議会がスタートします



令和4年度の活動に向けて

会長 瀬戸康次郎

令和3年度の「たかむくのまちづくり協議会」活動は、コロナ過によって、「敬老会事業」や「ふれあい祭り」を始めとした様々な活動企画が中止に追い込まれた一年でした。そうした中で令和4年度を迎えた訳ですが、コロナ過もワクチン接種などの効果も顕在化し、有難いことに、十分なコロナ対策を取れば、様々な活動が出来る状況になってまいりました。

令和4年度の活動にあたって、四月二十六日(火)に、坂井市丸岡町内のまち協の中で唯一、古城ホールにおいて総会を開催いたしました。また、令和3年度には徴収を中止していた「地区会費」を皆様にもお願いすることも総会で認めていただきました。令和4年度は、規約にある「高棕地区において、希望をもって学び、働き、幸せに暮らすことができるまちとして発展させるため」各部会活動を中心として、様々な活動企画が立てられ、実施されております。また高棕地区の歴史や文化、未来に向けた思いなどを編集する「たかむくの玉手箱別冊」の編集も、実行委員会を中心に行われております。

「たかむくのまちづくり協議会」では、当協議会の活動趣旨をご理解いただける住民の方々の参画を広く募集いたしております。今後とも皆様のご理解、ご支援の程、お願い申し上げます。



皆さんとともに歩むまちづくり

あんしん部会

部会長 上田 茂宏



日頃は、まちづくり協議会の活動に賛同・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。あんしん部会は、地区の皆さまの安心安全なまちづくり、特に近年は防災に強いまちづくり、子供たちやお年寄りに優しいまちづくりを考え、活動しています。

前年度のことになりますが、去る三月二〇日(日)に、区長会と合同で防災訓練を行いました。コロナ禍の中ではありましたが、多くの方が参加して下さい、感染対策に気を付けながら行いました。

新年度早々の事業では、六月四日(土)に、気象予報士の村田光広氏をお招きして防災講演会を行いました。今後は、八月に防犯パトロール、十月には区長会との合同防災訓練、体協と共催する「てくてく歩こう会」などを行う予定です。また、部会員を対象とした研修として、普通救命講習会(AED講習会)や、避難所運営ゲーム(HUG)の訓練なども予定しています。

これからの部会活動に思うことは、安心安全に関する地域の問題点や改善策を見つけ出し、いろいろな立場の方からのご意見も集めながら、活動に活かしていきたいということです。これからも一生懸命行つてまいりますのでよろしくお願いいたします。



3月に開催された防災訓練
(簡仕切りテント設置)



てくてく歩こう会(令和3年度)



防犯パトロール(令和3年度)

たかむくのまちづくり協議会の、令和4年度総会が4月26日(火)に、たかむく古城ホールにて開催されました。この結果、令和3年度の決算報告と今年度の予算案が承認されました。

0円
00円
0円
46円
86円
32円

01円
62円
27円
73円
00円
19円
52円
61円
72円
0円
65円

32円

00円
00円
0円
35円
65円
00円

00円
00円
03円
97円
00円
00円
00円
00円
00円
0円
00円



高椋幼稚園での卒園記念プランター作り
(令和3年度)



今福保育園児との梅干し作り

今年度も地区の皆さんが楽しく交流し、つながり合えるよう
なまちづくり事業を行っ
ていきたいと思ひますの
で、皆様方のご協力をお
願ひします。

ふれあい部会

部会長 種田 豊秋



また、昨年度実施できなかった小学生高学年を対象としたお
仕事見学会や、ふれあいコンサートとして一二月にクリスマス
コンサートを実施することとしています。クリスマスコンサー
トとは地区内で活躍されているグループの方々、古城ホール
の大きなステージで日頃の練習成果を発表していただき、その
華やかなステージをご家族の皆さんはもとより地域の皆さんと
ともに楽しんでいただくというものです。参加を希望される方
は高椋コミュニティセンターまでお知らせください。

また、昨年度実施できなかった小学生高学年を対象としたお
仕事見学会や、ふれあいコンサートとして一二月にクリスマス
コンサートを実施することとしています。クリスマスコンサー
トとは地区内で活躍されているグループの方々、古城ホール
の大きなステージで日頃の練習成果を発表していただき、その
華やかなステージをご家族の皆さんはもとより地域の皆さんと
ともに楽しんでいただくというものです。参加を希望される方
は高椋コミュニティセンターまでお知らせください。

昨年度のふれあい部会は、地区の皆さんが楽しく交流し、つ
ながり合える事業を行うことを活動目的として花育活動・食育
活動を行ってきました。
そして、ふれあい活動として小学生高学年を対象としたお仕
事見学会や、誰もが参加できるふれあいコンサートの開催を計
画しましたが、コロナウイルスの感染拡大の影響を受けてやむ
なく中止の判断となり、実施することができませんでした。
まだまだ気を緩められない現状ですが、今年度も昨年度に引
き続き花育活動として、コミュニティセンター前の花壇の整備
など地域に花作りの輪を広げていく事業や、食育事業として保
育園児を対象とした梅干し作り、小学生を対象とした味噌造り
教室を開催します。

丸岡地区内のまち協との交流を図る

歴史文化部会

部会長 金崎 昭雄



泰澄寺で住職の話を聞く(令和3年度)



高椋歴史ボランティア活動(令和4年度)

- 令和4年度の目玉事業を紹介します。
- 「高椋地区歴史座談会」新しく入会して頂いた歴史文化部会
員との交流の場
- 丸岡地区内のまちづくり協議会との共催企画
(学習会又は講演会)
- 歴史本「別冊たかむく玉手箱」の編集作業、令和五年三月
発行予定

この二年コロナウイルス感染拡大の影響で活動らしい活動は
しておりませんが、部会役員会において今後の展望を考える時
間がたくさんありました。
そのひとつとして、横の繋がりを今年取り入れました。地
元丸岡の各地区には、たくさんの歴史文化があります。正直、
地区の方にはなかなか浸透していません。今後は一人でも多く
の方に知って頂くため、魅力のある企画を考えていきたいと思
っています。

丸岡地区内には七つのまちづくり協議会がありますが、たか
むくのまちづくり協議会は創設以来、町内の交流は皆無に等し
いです。一方、二年前の大河ドラマの影響で、福知山の団体と
交流会を開きお互いの活動報告を発表し意見交換をしてまいり
ました。

令和3年度の決算報告

(収 入)	
地区会費	
市交付金	4,731,6
寄付金	
雑収入	127,0
繰越金	2,875,7
合計	7,734,4
(支 出)	
会議費	30,2
事務費	259,3
総務費	1,566,7
区長会活動費	1,093,5
敬老事業費	1,168,0
あんしん部会費	445,4
ふれあい部会費	428,8
ふるさと部会費	912,0
センター活動費	190,9
予備費	
次年度繰越金	1,639,2
合計	7,734,4

令和4年度の予算案

(収 入)	
地区会費	940,0
市交付金	4,791,2
寄付金	
雑収入	29,5
繰越金	1,639,2
合計	7,400,0
(支 出)	
会議費	50,0
事務費	260,0
総務費	1,600,0
区長会活動費	1,384,9
敬老事業費	1,225,0
あんしん部会費	750,0
ふれあい部会費	800,0
ふるさと部会費	950,0
センター活動費	220,0
予備費	160,0
次年度繰越金	
合計	7,400,0

今 福保育園児が 梅干し作りにチャレンジ!

ふれあい部会の食育グループでは、昨年に引き続き保育園児との梅干し作りを、6月28日(火)に高椋コミュニティセンターで行いました。今年は今福保育園の園児31名が、まち協のスタッフと一緒に15kgの梅を漬け物樽に入れて塩漬けにしました。

この後7月上旬に、樽の中に赤しそを入れる作業を行います。梅干しとして食べられるのはもう少し後になりますが、手作りの梅干しを食べて、暑い夏を元気に乗り切ってほしいと願っています。



夏の花壇づくり始まる

「えがおいっぱい 花いっぱい」をテーマとする花育グループでは、高椋コミュニティセンターの玄関前を、季節のお花でいっぱいにする活動をしています。

6月上旬には、春から育てていたビオラやサクラソウが終わり、インパチェンスのプランターに変えたり、アサガオの苗を植えたり、夏に向けて着々と花壇づくりをすすめています。

今年から、高椋地区内の保育園や幼保園に、季節の花を植えたプランターを設置することになりました。花の入れ替えはまち協で行いますが、水やり等日常の管理は園にお願いします。子供たちとお花がふれあって、笑顔いっぱいになってほしいですね。

花育
グループ

わたしの 押し花



ヒューケラは葉色のバリエーションが豊富で、年間を通して鑑賞できるのが魅力です。5月~7月には、赤やピンク、白の小花が群れ咲き、開花の期間も長いです。

ヒューケラは、植物にとっては不利な日陰でも育ち、夏の暑さや冬の寒さ、乾燥にもかなり絶えられます。そのためか「辛抱強さ」という花言葉があります。

高椋コミセン玄関前にはヒューケラの花壇があります。

ちょっと一息。眺めてみませんか。





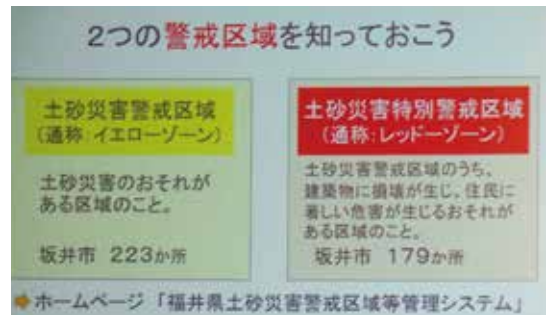
防災講演会開催される

あんしん部会では、6月4日(土)たかむく古城ホールにて、福井テレビ・ケーブルテレビで気象コーナーを担当してられる気象予報士の村田光広氏を講師にお招きして、「近年の異常気象と気象災害」と題した防災講演会を開催しました。

講演では、大雨・大雪等が発生する仕組みを、大陸の地形や衛星画像、天気図からわかりやすく説明していただきました。

また、近年増加している狭い範囲で発生する雨雲「線状降水帯」による大雨の予報は、半日前に「北陸地方」等の広い範囲でしか発表されず、しかもすべてを予測できるわけではないとのことでした。

水害・土砂災害から身を守るためには、ハザードマップ等で土砂災害等地域の災害リスクを日ごろから認識し、避難等の安全を確保するための行動を、早めにとることが重要であることを再認識しました。



歴史文化部会の歴史講座が、去る7月2日の午後7時から開催されました。

日頃私達は、何気なくこの高椋地区に住んでいますが、この地区の歴史について余り知らない人が多いと感じ、今回初めてこのような企画をしました。

最初はどれ程の人が集まるのか不安ではありましたが、50名近くの参加があり、地域の人々の関心の高さがわかりました。講師は、この部会の前部会長でもあった松本盛博氏です。

さて、お話は太古の時代から始まります。高椋地区は海に面しており、平成15年から発掘調査では4500年前の弥生時代後期から人々の日常生活があったとされていましたが、最近の調査では6000年前までさかのぼるそうです。

この後登場するのが、26代目の天皇である継体天皇です。山の上に登り山頂から、その当時湖であった高椋地区を望み、この地を穀倉地帯にしたいと思い治水事業を行いました。この時代に生まれた地名が今もなお残っているとのことでした。

問題はなぜ、高椋は「たかむく」から、「たかほこ」へと変化したのか。日本書紀と古事記とでは同じ呼び名でも書く漢字が違うこと、それがいつしか今の「たかほこ」になったのですが、言いやすいように変わっていったようです。

この地区には様々な神社が有り、その1社1社に歴史があり、昔からの由来があり、それが今もなお、地域の人々の日常が守られていることを感じました。

最後に、昭和5年の高椋地区の無声映像を皆さんに見てもらいました。一本田付近を走る電化前の軽便鉄道、そして西瓜屋の町並み、高椋小学校の西門、校舎、女学生の体育の授業中の様子など…。その女学生が、今もなお生存すると、102歳です。

圧巻は、地震前の称念寺です。正門は今の倍はあろうかと思えます。五条の筋壁が光っています。折れていない新田義貞公贈位碑や、高椋小学校の全校生徒の前でお話をされている先々代の住職の若かりし頃の姿…この地区の人なら、是非とも見たくなる映像かと思われま

歴史文化部会 辻 晃市

後世に伝えたい高椋の歴史

高椋地区歴史講座



スマホカフェへようこそ

高椋コミュニティセンターと、たかむくのまちづくり協議会では、6月16日(木)高椋コミュニティセンターの3階にある屋内テラスで、「たかほこスマホカフェ」をオープンしました。

近頃はスマホショップやコミュニティセンターなどで、様々なスマホ教室が開催されていますが、「〇〇のことだけ教えてほしいのに…」「何度も同じことを聞くのは気が引ける」「スマホは気になるけど、自分は持っていないから、行ったらダメなんだろうな…」と思ったことはありませんか？

たかほこスマホカフェなら、そんな心配はいりません。コーヒーやお茶を飲みながらみんなで楽しいスマホ時間を過ごしましょう。

カフェは毎月第3木曜日の午後1時30分から3時30分までオープンしていますので、お気軽にお立ち寄りください。来場者が多い日は、全員の質問をお受けできなくなる場合がありますが、毎月開催していますので、「また来月があるさ」と気長におつきあいいただくと嬉しいです。



スマホカフェは、スマホの基本的な使い方や、便利な使い方などを、気軽に相談できる場所です。

※「講座」ではありません。

時間内なら自由に入退場できます。

講師は、「同じことを何度聞いても笑顔で答える」がモットーの

「NPO法人いきいき！Tクラブ」

代表：道見英夫さん(西瓜屋)

◇参加費 100円

◇問合せ 高椋コミュニティセンター

(TEL68-0843)



今後の開催予定

8月18日 9月22日 10月20日 11月17日

12月15日 1月19日 2月16日 3月16日

※災害級の荒天や、新型コロナウイルス感染状況によっては開催を中止することがあります。

たかほこスマホカフェご利用のお願い

◆受付で住所・氏名・連絡の取れる電話番号を記入し、参加費100円をお支払いください

◆コーヒーとお茶はセルフサービスです。好きな飲み物を自由にお飲みください。

◆質問は1人1件でお願いします。時間は10分を目安とさせていただきます。なお、質問は午後3時で締め切らせていただきます。

※同じ質問の方が多ければ、小グループになっていただく場合があります。みんなでワイワイ習いましょう。カフェに来た人同士で習ったことを教え合っていたらとgoodです。

◆質問は、お手持ちのスマホの使い方についてのみお願いします。※ご家庭での通信機器やお金に関することなどについての質問にはお答えできません。

◆聞きたいことが今日全部聞けなかったり、わからなかった場合も大丈夫です。

※同じことを何度質問しても大丈夫です。またのご来場をお待ちしています。

◆スマホの質問がなくても大丈夫。お茶を飲んだり、お友達とのおしゃべりを楽しみましょう。



私の福井震災

忘れてはならない友影町長の
天地神明に誓つての復興努力

歴史文化部会 吉田昭宣

丸岡町内の民家倒壊の様子

(写真提供／毎日新聞社) 「お天守がとんだ」より

かすかに記憶が蘇る福井大震災、昭和二十三年六月、福井大震災、丸岡城倒壊。安政五年（一八五八）三月の大地震では「お天守の鯨が落下 城郭 石垣も崩れた」と記録されている。我が家は、この年に建てられたと伝えられている。

その悪夢の再来 福井大震災が昭和二十三年（一九四八）六月に発生した。前回の地震よりちょうど九十年目だ。この大震災で我が家はまた全壊した。

まだ三歳を過ぎたばかりの私は地震発生時に勝手口で下敷きとなり、ようやく数時間後に助け出された。幸いに大きな漬物重石の横に偶然に転じて圧死を免れたのだ。生死紙一重だった。生爪がはがれた足の指先がむしろに触れるたびの妙な痛さを今も思い出す。

天を焦がすほどの紅蓮の炎が、辺り一面、真昼のように明るく照らしていた。火の粉がつぶれた茅葺の屋根にどんどん降り注ぐ。丸岡の町がこうごとと燃え上がっていたのだ。それなのに燃え上がる凄まじい轟音は覚えていない。地震と火災にまつわる悲惨な生き別れの話も聞いた。丸岡駅前で犠牲になりこと切れていた人が今も目に浮かぶ。夜が明けたら焼野原。未だくすぶっていた。

しかし 幸いお天守は類焼しなかった。倒壊はしたが、建設当初の柱など調査記録や

写真、図面などが残っていたことでお天守の復元ができたのだ。

福井大震災時のお天守再建の時は、友影町長はじめ小樽の荒田氏が郷土への支援。更に町の家徴を失った町民の思いが一つとなり、お天守の再建が実現した。

「丸岡町震災復興誌」の巻頭言には、復興への熱い思いが如実に表れている。友影町長は「一度は総てを運命と 学校の下敷きで死を覚悟した私であったが、生を得て、昼夜の別なく町民と共に、地震で死んだつもりで命を投げ出して働いた。誰が何と言おうと誠心誠意働いたことは、天地神明に誓つて恥じない」「しかしながら国宝を誇る霞ヶ城が未だ再建の運びに至っていないのは如何にも残念である」と。

昭和二十七年丸岡城再建工事着工。この頃、高椋村でも戦後初めての芸能祭などが行われるなど、復興は一段落つき人々の心にもゆとりができてきた。然し今なお無残なお天守に心痛めていた友影町長はお天守の再建を決心したのだ。私が小学二年の頃だ。

再建の工事が始まると、城山が素屋根で周囲がよしよ張りになった風景が長い間みられた。

「お天守」には まず耐震工事が必要

寺田虎彦は「津波と人間」で、地震や津波について、大規模な地震の活動によって将棋倒しに倒される「非常時」が到来するはずである。それはいつだかわか



倒壊した丸岡劇場 (写真提供／朝日新聞社) 「お天守がとんだ」より

らないが、来ることは来るというだけは確かである。今からその時に備えるのが何より肝要であると述べている。

既に福井震災からすでに七十四年経過している、この「非常時」の警告を重く受け止め、丸岡城は第一にお天守の耐震工事を終えることだ。何よりも災害に強い「不死鳥のお天守」を後世に伝えるのが、私たちの使命である。「不死鳥のお天守」は未来永劫に私たちに不屈の力を与えてくれるだろう。

大切なことは、非常時にそなえて、平常時から自分自身の身を守る備えしておくことだ。今一度、福井大震災を思い起こそう。大勢の人々が犠牲になり、住む家も失ったことを。

今回から、高椋地区の文化財の中から特色あるものを紹介します。
第一回目として、称念寺を時宗の道場として再興した他阿真上人に関する貴重な文化財二件です。



○他阿真教上人像
(国指定重要文化財)

称念寺が所蔵する数多くの文化財の中で、最も貴重なものです。

時宗の開祖である一遍上人の一番弟子であった他阿(一二三七)

一三一九は全国を遊行し、一九〇年に称念寺を時宗道場として再興した。称念寺の他阿真教上人肖像画は、最古の絹本着色像である。像の傍らに『南無阿弥陀仏』と『老いくのあとをむなしと いうつく日 山のはちかく 影ぞ たかぶく』の上人自作の詠歌が金泥で書かれている。縦七・五センチ四一横センチ鎌倉時代の作である。



○他阿真教上人座像

他阿真教上人(一二三七年〜一三一九年)は、時宗二代目の上人です。正応三年(一二九〇)に北陸を布教して、称念寺を時宗の道場にしました。称念寺が現在も真教上人の有力な寺院であることで、令和四年三月に時宗総本山の清浄寺(神奈川県藤沢市)から寄贈された木製寄木造りの仏像(座高九〇センチ)です。

(松本盛博・記)

表紙の写真

災害時でもおいしい食事を
～日赤奉仕団 災害食炊き出し訓練～

日赤奉仕団丸岡支部は、6月21日(火)、高椋コミセンと高椋西部コミセンにおいて、災害食の炊き出し訓練を行いました。この日のメニューは、「大豆入り炊き込みご飯」「ミネストローネ」「レーズン蒸しパン」でした。作り方は簡単で、材料をハイゼックスという高密度ポリエチレン袋に入れ、お湯の入った鍋に投入後、約30分程度で出来上がります。

災害直後は、おにぎりや菓子パンなどの支給品でもなんとか我慢できますが、避難所生活が何日も続くとストレスが溜まってきます。そんな時に温かい手作りの食事があると心の支えになります。

また、災害時には水も不足するため、少ない水でやりくりできる食事づくりが求められます。日赤奉仕団では、このような時に対応できるように、メニューを工夫しながら日々訓練をしています。



防災UP!ミニ講座 第7回

災害時の主な活動の例



①情報収集と伝達：
被害情報、救援情報の周知
②初期消火活動：
消火器などによる消火活動

③避難誘導活動：
住民の安全確認
住民を避難所へ誘導
④救出救護活動：
負傷者の救出救護
医療機関への連絡
介助が必要な人への手助け
⑤給食給水活動：
食料・飲料水の調達と炊き出し
救援物資の受け取りと分配

今の日本は、地震、台風、豪雨、土砂災害などの自然災害がいつ身の回りに降りかかるかわからない状況です。前回に続き今回も災害時の対応について述べることにします。

これらの作業を的確かつ迅速に実行できるようにするには、日頃からの訓練が必要になってきます。計画や練習は他の区と同じであっても違っていてもかまいません。自分の地区で申し合わせた

避難方法が、「誰もが間違いない」「慌てることなく」「一人も取り残しをしない」日頃からの訓練を、まさかの時に生きていくことを確信しながら、毎回地区住民の方々と力を合わせて訓練するしかないのです。

防災計画に決まった形はありません。目的は中身を実行することであって、地域の実情に合わせて、できることから取り組みましょう。区民の総意で計画を練り、誰もが参加できるよう住民一人一人が、自分の身を自分の努力によって守る自助と、地域や近隣の人々が協力し合いながら、防災活動に取り組む共助が重要



となりです。
普段から防災訓練や啓発活動を行い、地域の防災力を高めようではありませんか。
防災士 吉田 幸憲

編集後記

自分達の住む地域で、もし災害が起きた場合、皆さんはどの様に対処できますか、又その方法も知っていますか。まず地震の時、何処へ逃げたらいいのか、避難場所はどこか、そして台風の場合はどうするのか…

以前、千葉県浦安市では地盤の液化化現象がありました。この時は下水道管が被災して水洗トイレが使えなくなりました。代替トイレを用意したもののすぐには解決しなかつたそうです。

舟寄にある高椋西部コミセンの駐車場の一角には、下水道管につながるマンホールトイレがあるのを皆さんご存知ですか？また高椋コミセンには、災害時における色々な道具や機材があります。機会がありましたらこれらの物をチェックしてみてください。災害時に困るのはまず水そしてトイレです。いま一度自分達の周りの危機管理を考えてみてはどうでしょうか。昨今何が起きてもおかしくない地球環境ですからね。

(カミナリ☆サマー)